
無意味化によるデータセキュリティ

「秘密分散」

ZENMU ソリューションのご紹介

株式会社ZenmuTech

秘密分散とは？

秘密分散は、1979年に
Blakley博士とShamir博士
によって提唱された概念

情報を複数の分散片(シェア)
に分けて守り、分散片を
集めることで元の情報に
戻す技術

秘密分散にはいくつかの方式が
あるが、代表的なものとして、
しきい値分散、AONT(All or
Nothing Transform)といった
方法がある

1979年にA.Shamir博士とG.Blakley博士によって独立に提唱された概念

11人の科学者がいる極秘プロジェクトに取り組んでいる。彼らは書類をキャビネットに閉じ込め、6人以上の科学者がいる場合のみキャビネットを開くことができるようにしたいが、必要な錠前の数は最小で何個か？各科学者が持っていなければならないの錠の数は最小で何個か？

Dをn個の断片 D_1, \dots, D_n に分割し、以下のようになる。

- ① k個以上の D_i 個について知っていれば、Dは容易に計算可能である。
- ② k-1以下の D_i 個の知識はDを完全に未決定にする。

暗号鍵を安全に保管するのに役立つ



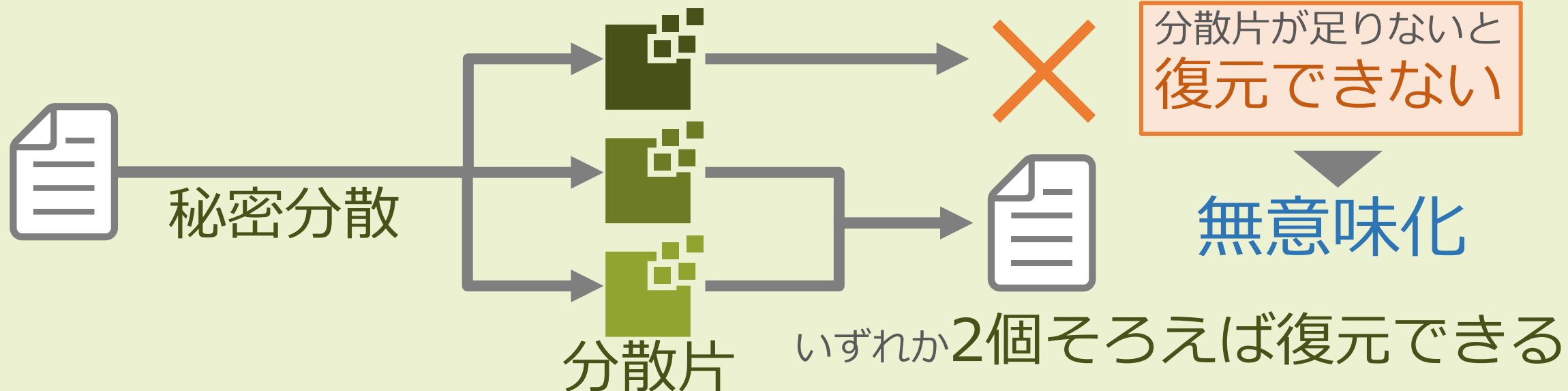
引用 <https://web.mit.edu/6.857/OldStuff/Fall03/ref/Shamir-HowToShareASecret.pdf>

(k, n)しきい値分散法

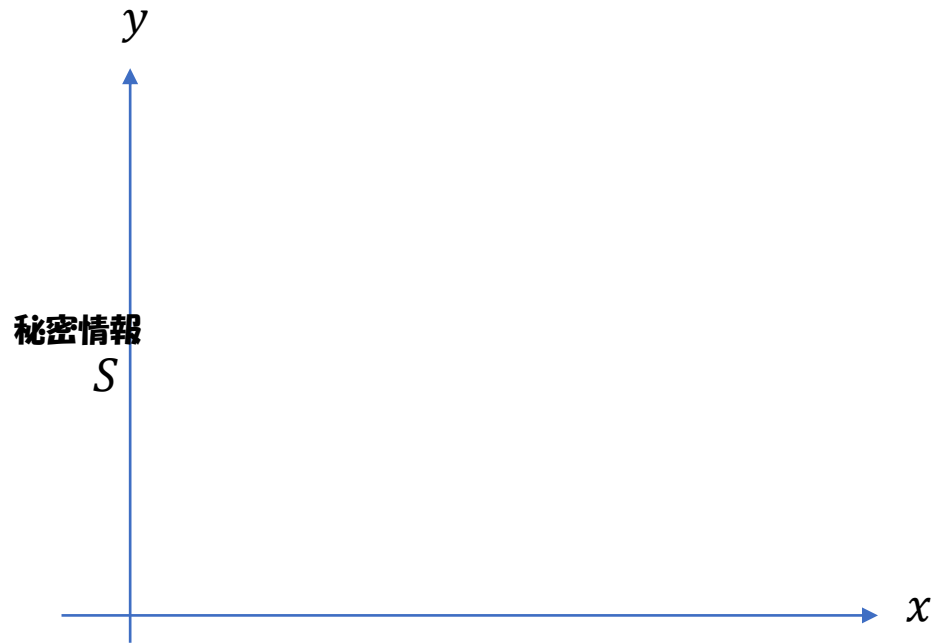
n 個の分散片の内 k 個 **そろわなければ**
元の情報を復元できない符号化手法

暗号化と異なり
復号のための
鍵が不要

例: **3**個に分散した内**2**個そろわなければ元の情報を復元できない

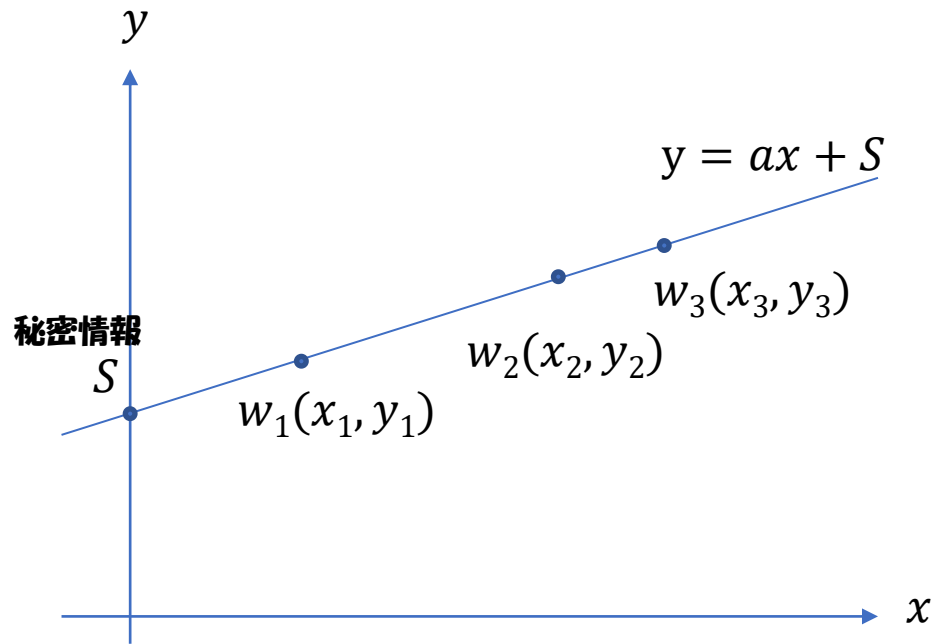


秘密情報 S をしきい値分散で分割(2つのシェアが集まれば復元できる)する方法(多項式を使う方法)



情報の分散

秘密情報Sをしきい値分散で分割(2つのシェアが集まれば復元できる)する方法(多項式を使う方法)



$y = ax + S$ (a は乱数で決定)の式を生成

乱数で x_1, x_2, x_3 の値を生成

これらの値を $y = ax + S$ の式に当てはめて y_1, y_2, y_3 を計算

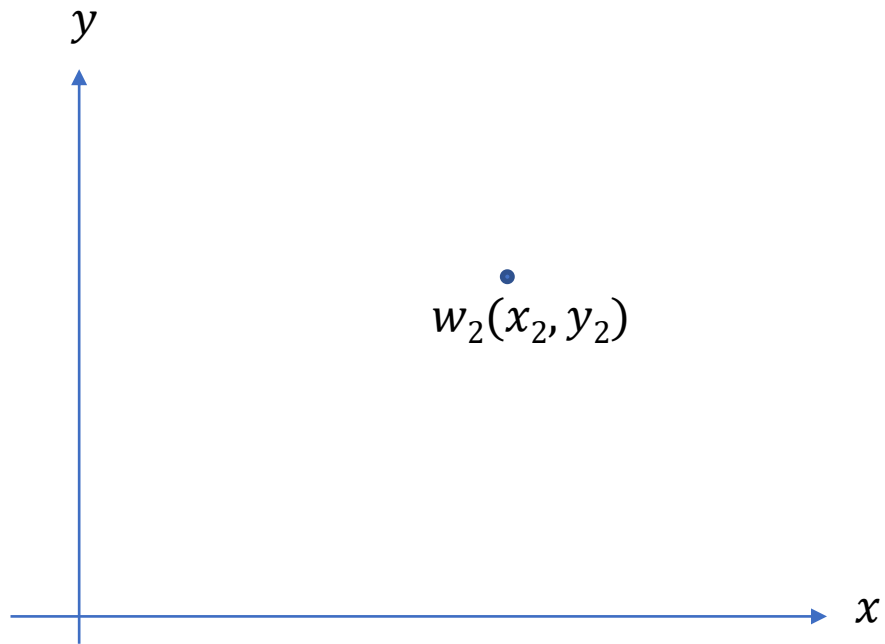
$$y_1 = ax_1 + S$$

$$y_2 = ax_2 + S$$

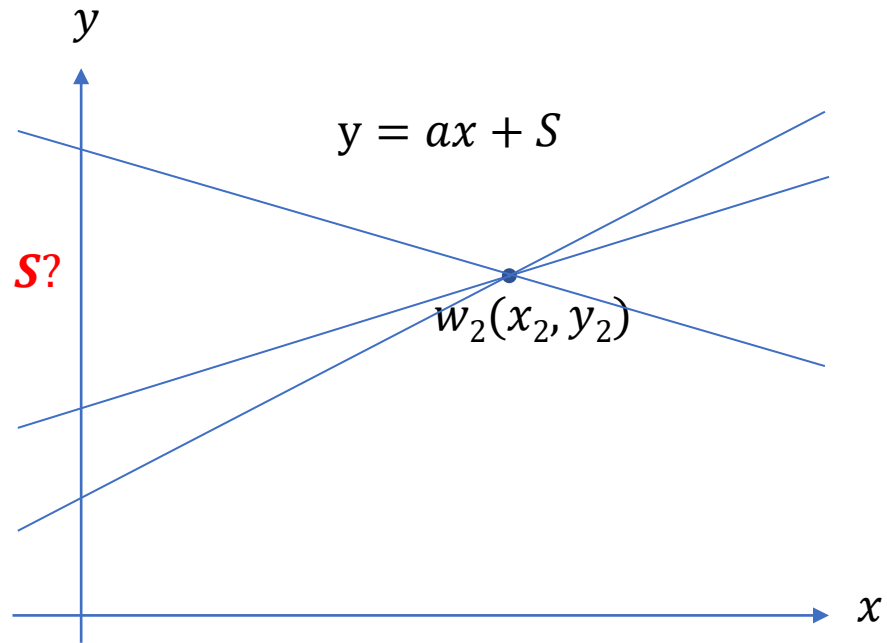
$$y_3 = ax_3 + S$$

これらの値を使って、 w_1, w_2, w_3 を定義

シェアが1個しか集まらなかったとき



シェアが1個しか集まらなかったとき

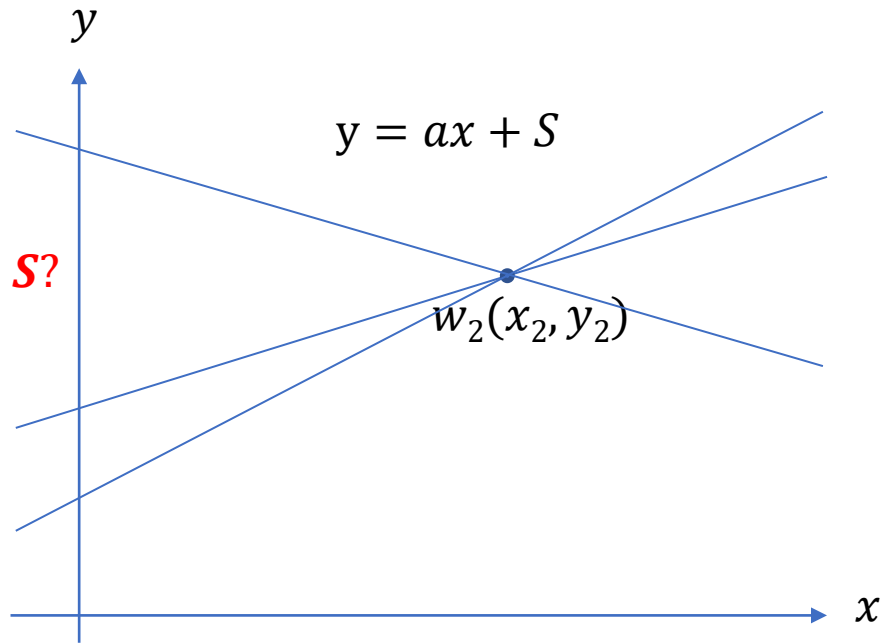


w_2 を通る直線は無限に引けるから、 S がどこなのかわからない

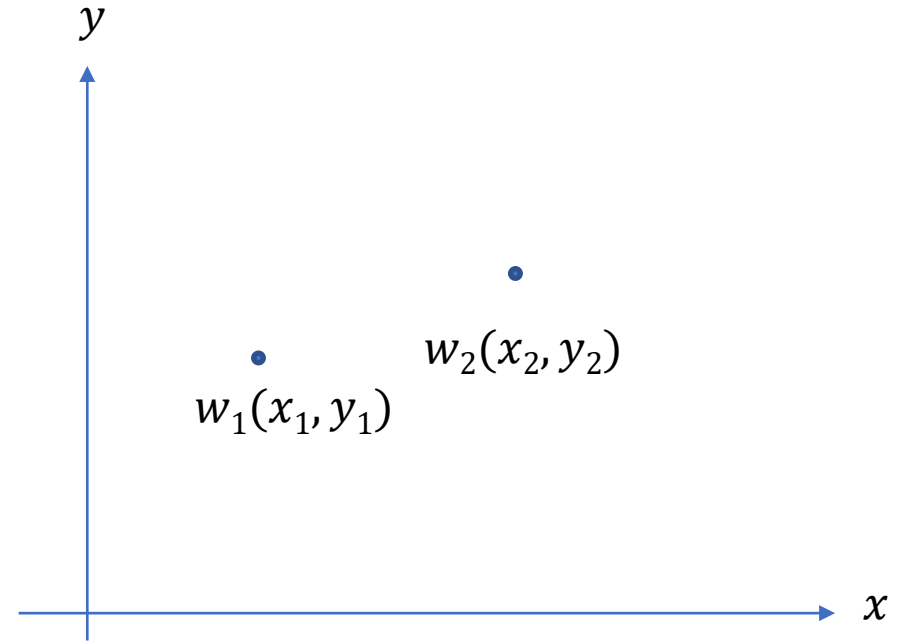
秘密情報 S を特定することができない

シェアが1個しか集まらなかったとき

シェアが2個集まったとき



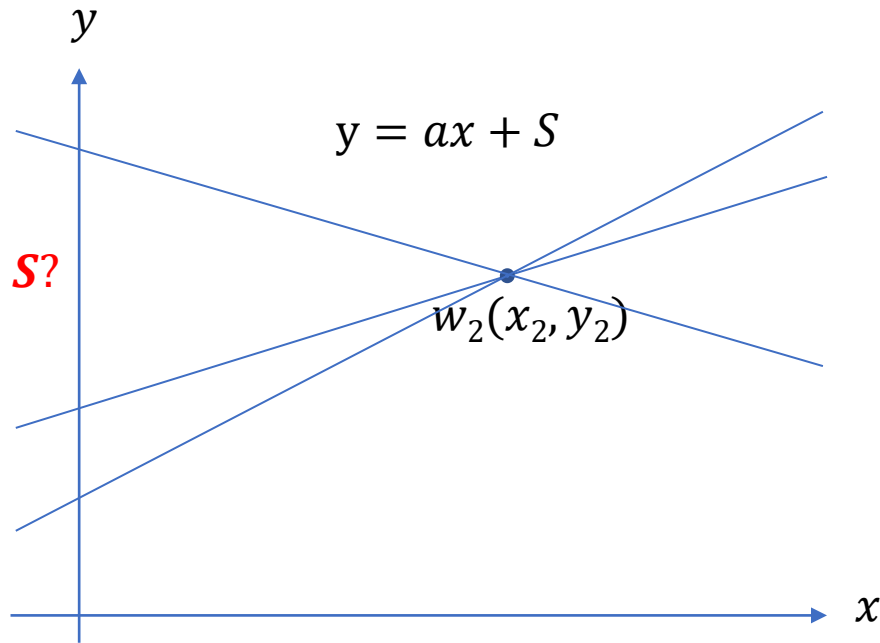
w_2 を通る直線は無限に引けるから、 S がどこなのかわからない



秘密情報 S を特定することができない

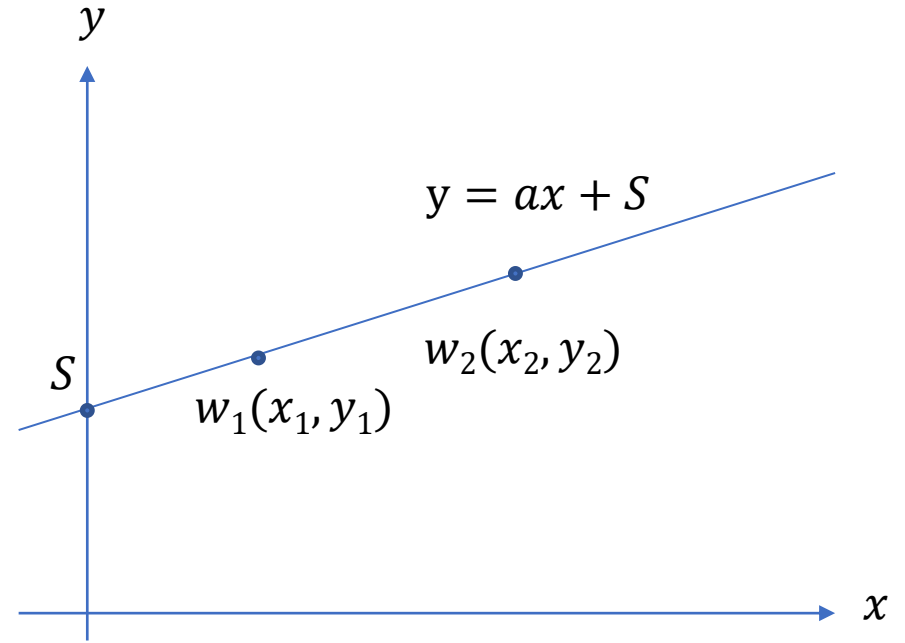
シェアが1個しか集まらなかったとき

シェアが2個集まったとき



W_2 を通る直線は無限に引けるから、 S がどこなのか定まらない

秘密情報 S を特定することができない

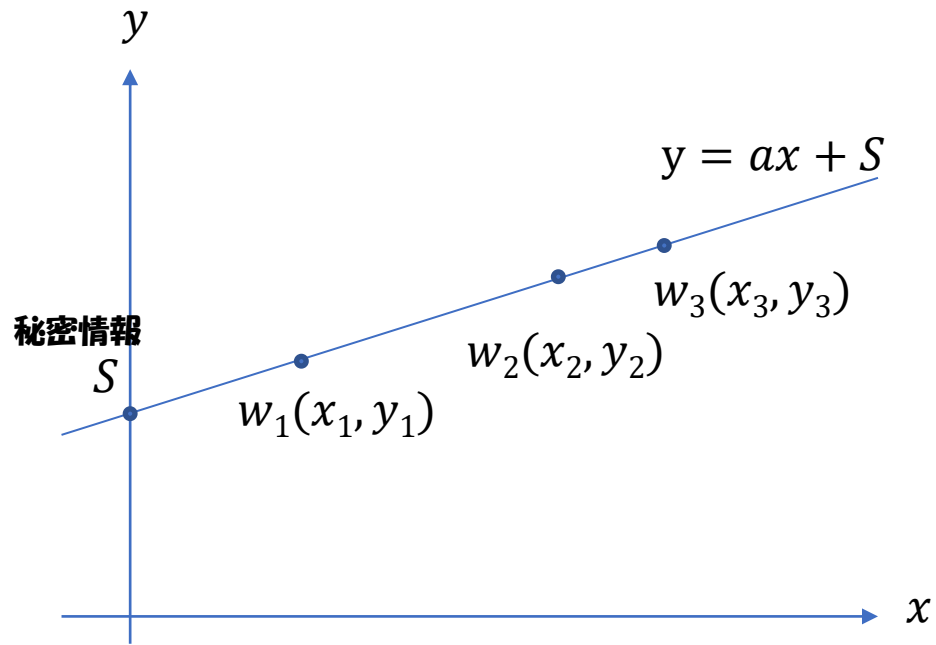


W_1 、 W_2 を通る直線は1本だけ引けるから、 S が求められる。

秘密情報 S を復元することができる

情報の分散

秘密情報Sをしきい値分散で分割(2つのシェアが集まれば復元できる)する方法(多項式を使う方法)



$y = ax + S$ (a は乱数で決定)の式を生成

乱数で x_1, x_2, x_3 の値を生成
これらの値を $y = ax + S$ の式に当てはめて y_1, y_2, y_3 を計算

$$\begin{aligned}y_1 &= ax_1 + S \\y_2 &= ax_2 + S \\y_3 &= ax_3 + S\end{aligned}$$

これらの値を使って、 w_1, w_2, w_3 を定義

Appendix

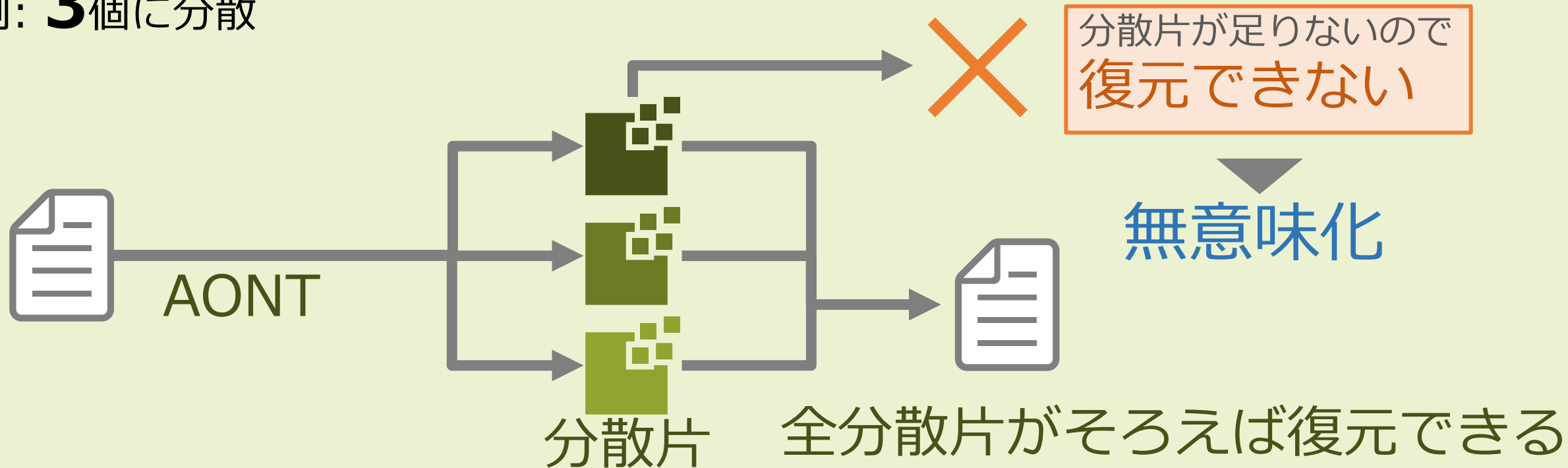
3つのシェアが集まれば復元できるように分割する場合は、 $y = ax^2 + bx + S$ の式を使えばOK。
4つのシェアにする場合は3次式、というように、 k 個のシェアが集まれば復元できるようにするには、 $(k-1)$ 次式を使って秘密情報Sを分割。

AONT(All Or Nothing Transform)

n 個の分散片の内**全て**そろわなければ
元の情報を復元できない符号化手法

暗号化と異なり
復号のための
鍵が不要

例: **3**個に分散



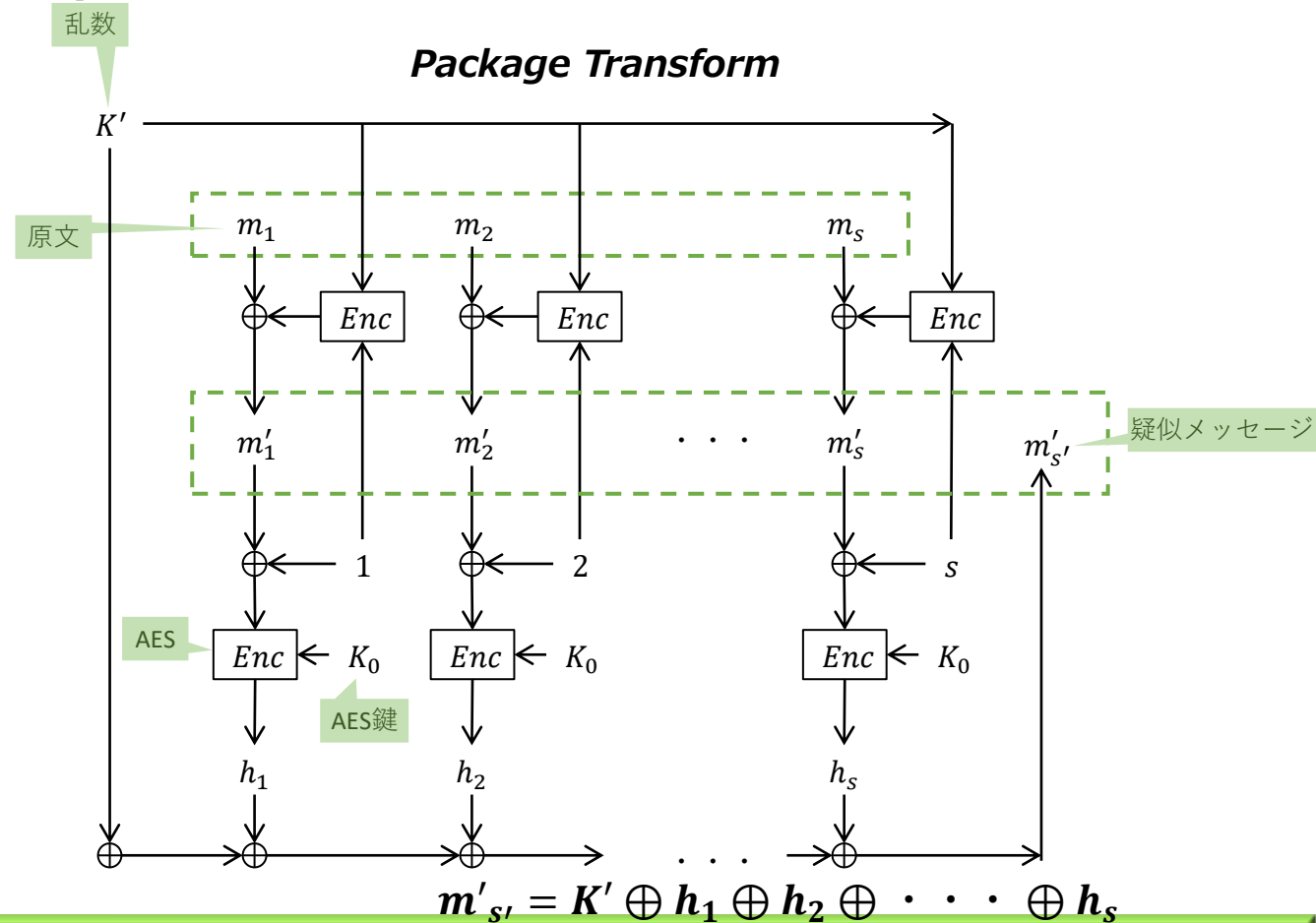
RSA暗号考案者の一人であるRivest博士によって1997年に提唱された概念

攻撃者によるbrute-force attack(総当たりによる攻撃)をより困難にするための暗号化の前処理として考えだされた

- ✓ 変換fは可逆であり、疑似メッセージ列が与えられれば、元のメッセージ列を得ることができる。
- ✓ 変換fとその逆はともに効率的に計算可能である(つまり、多項式時間で計算可能である)。
- ✓ 疑似メッセージブロックの1つでも未知であれば、任意のメッセージブロックの関数を計算することは計算上不可能である。

AONTの特徴

- ✓ 変換後の総データ量は元データとほぼ同じである。
- ✓ すべての分散片(シェア)を集めることで復号可能となる。
- ✓ 任意のサイズで分散可能である(但し、最小サイズはあり)。

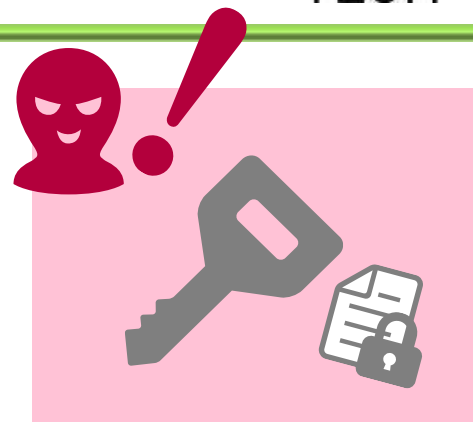
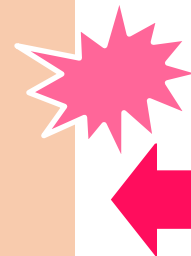


しきい値分散/AONT比較

	しきい値分散	AONT
データ量	× 元データのn倍	○ 元データとほぼ同じ
難読性	◎ 情報理論的安全性	○ 計算量的安全性
可用性	○ 指定個の分散片が集まれば 復元可能	× 一つでも分散片がなくなると復元不能
速度	△ 多項式方式は遅いため、 XOR方式が考案されている	○ 複雑な計算は行わないため、 速い

暗号化との比較

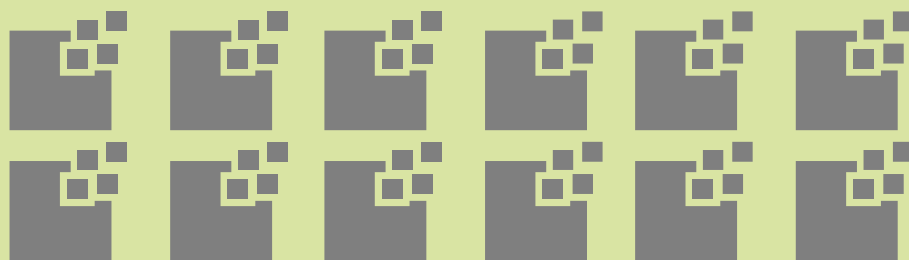
暗号化



攻撃者に鍵を盗まれると解読の危険

鍵にリスクが集中

秘密分散



分散片をしきい値個そろえなければ解読不能

リスクを分散

情報



秘密分散の国プロへの展開



戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第2期
課題「光・量子を活用したSociety 5.0実現化技術」
投択課題、研究責任者及び研究開発機関について

(1) レーザー加工

①CPS型レーザー加工機システム研究開発

採択課題：CPS型レーザー加工機システムによるスマート製造推進実証
研究責任者：小林 洋平 (国立大学法人東京大学 物性研究所教授)
代表研究開発機関：国立大学法人東京大学
共同研究開発機関：(なし)

②空量子情報技術に係る研究開発

採択課題：高スループットレーザー加工のための空量子情報技術実証
研究責任者：益田 晴貴 (浜松ホトニクス株式会社 中央研究所 研究主幹)
代表研究開発機関：浜松ホトニクス株式会社
共同研究開発機関：国立大学法人京都大学

③フォトニック結晶レーザーに係る研究開発

採択課題：フォトニック結晶レーザーの高精密化およびスマート化の研究開発
研究責任者：野田 謙 (国立大学法人京都大学 大学院工学研究科 教授)
代表研究開発機関：国立大学法人京都大学
共同研究開発機関：三菱電機株式会社、ローム株式会社

(2) 光・量子通信

①量子暗号技術

採択課題：量子暗号技術と量子セキュアクラウド技術に関する研究開発
研究責任者：藤原 幹生 (国立研究開発法人情報通信研究機構 未来ICT 研究所量子ICT 先端開発センター 研究マネージャー)
代表研究開発機関：国立研究開発法人情報通信研究機構
共同研究開発機関：日本電気株式会社、株式会社東芝、学習院大学、
国立大学法人東京大学、国立大学法人北海道大学、
株式会社ZenmuTech
(以上)

06. 光・量子を活用したSociety 5.0 実現化技術

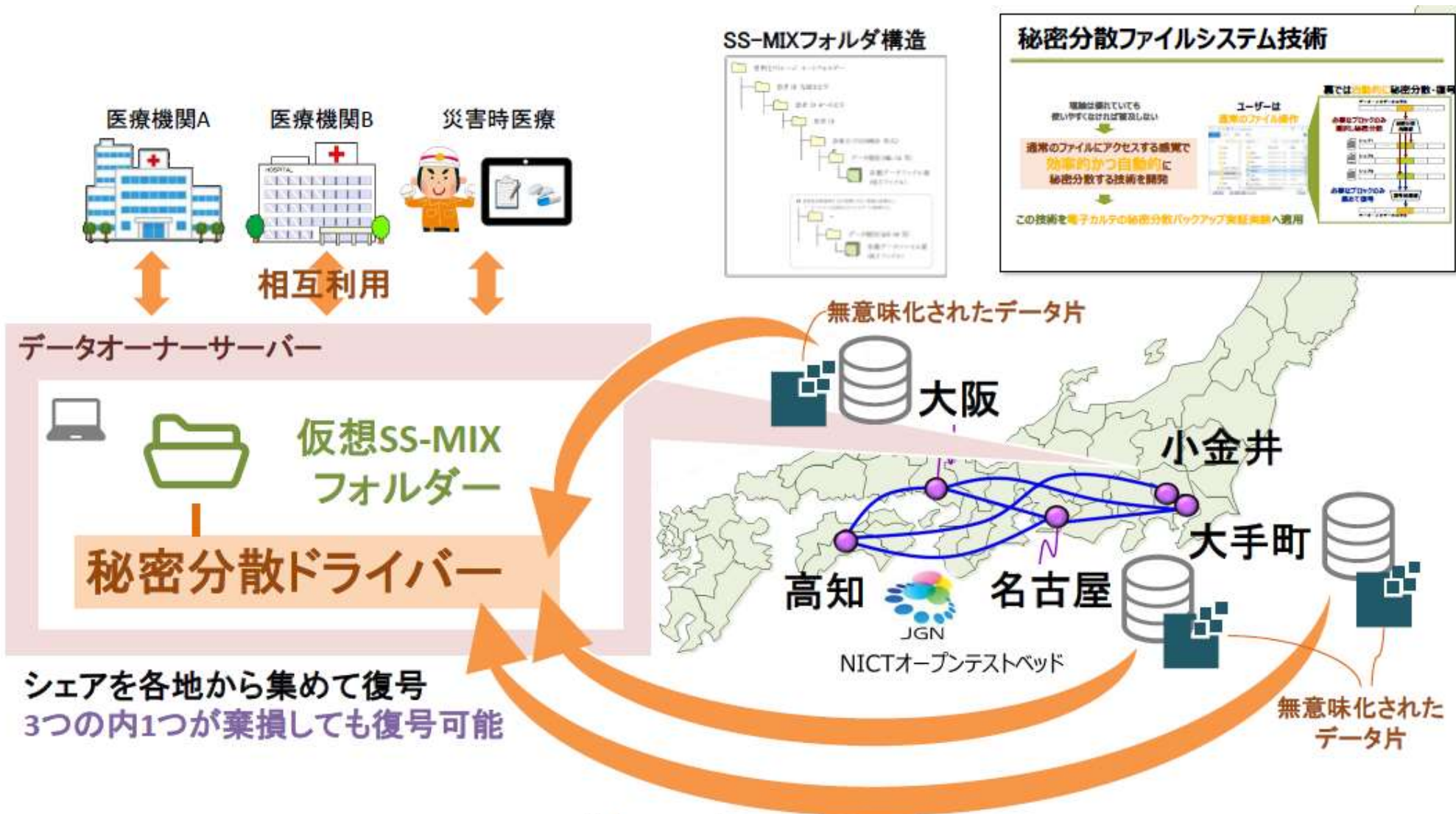
西田 直人 (にしだ なおと)
(株)東芝 特別顧問

<h3>目指す姿</h3> <p>概要 Society 5.0 実現には、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させるサイバーフィジカルシステム(CPS)の構築が鍵。現在、IoT/AIからスマート製造へと投資が開始されているが、社会・産業界共通の投資を阻むボトルネックが存在。我が国が強みを有する光・量子技術を活用し、これらのボトルネックを解消可能な加工、情報処理、通信の重要技術を展開・開発を行い、「レーザー加工市場シェア奪取のための日本発コア技術等の製品化」(ものづくり設計・生産工程の最適化)「高精密クラウドサービスの確立」等を達成し、Society 5.0実現を加速度的に推進させる。</p> <p>目標 ・CPS型レーザー加工機システムの実現 (レーザー加工条件の初期設定のリードタイムを現在の9割減)や、高精度・高スループットな加工を実現する空間光制御技術を実用化 (現在の10~100倍程度高速化)し、製造業における加工の世界トップの生産性を実現する。 ・フォトニック結晶レーザーの高速化及び高精度化を実現し、将来のレーザー加工等への応用を見据えつつ、人や障害物をいち早く検知し安心・安全な移動を可能にするセンシング技術に適用可能な微小光源を開発 (センシングシステムのコストを現在の9割減に削減。現在の一般的な既存半導体レーザーの10倍の輝度を目標とする)。 ・市場競争力の高い量子暗号装置 (耐タンパ性向上、従来比4分の1の低コスト化)を開発し(100km圏ネットワーク上で秘密分散ストレージ技術と統合することにより、完全秘密なデータ伝送、バックアップ保管、2次利用など豊富な用途アプリケーションを提供する量子セキュアクラウドシステムを実現する)。 ・スマート製造の実現に係る組合せ最適化等の問題の解決を世界で最も高速に実現する光電子情報処理のソフトウェアを世界に先駆けて開発する。</p>	<h3>社会経済インパクト</h3> <p>上記目標の達成を通じて、下記のような社会経済インパクトを実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本発コア技術等の製品化によるレーザー加工市場シェアの奪取 ものづくり設計・生産工程の最適化によるスマート製造の実現 高機密情報の安全な流通・保管・利活用による、医療・製造分野の生産性向上
<h3>出口戦略</h3> <ul style="list-style-type: none"> 拠点を設立し、国内外の企業ネットワークへテストプラットフォームの提供。技術データの収集、各企業と実証に向けた検証等を実施。企業の評価例：採用実例等を研究機関にフィードバックして企業の事業化に結実させる (レーザー加工)。 信頼性の高いデータに基づく医療分野やスマート製造分野のユーズと共同で試験運用し、標準化を進め運用ガイドラインを策定する (光・量子通信)。 開発したソフトウェアを企業等に提供・フィードバックをもらい開発に活用するとともに、個別企業の具体的な要求に基づきソフトウェア開発につなげる (今後、詳細を決定。光電子情報処理)。 研究成果の積極的・段階的な広報を実施し、企業等に際らず社会全般へ向け成果の浸透を図る。 	

達成に向けて

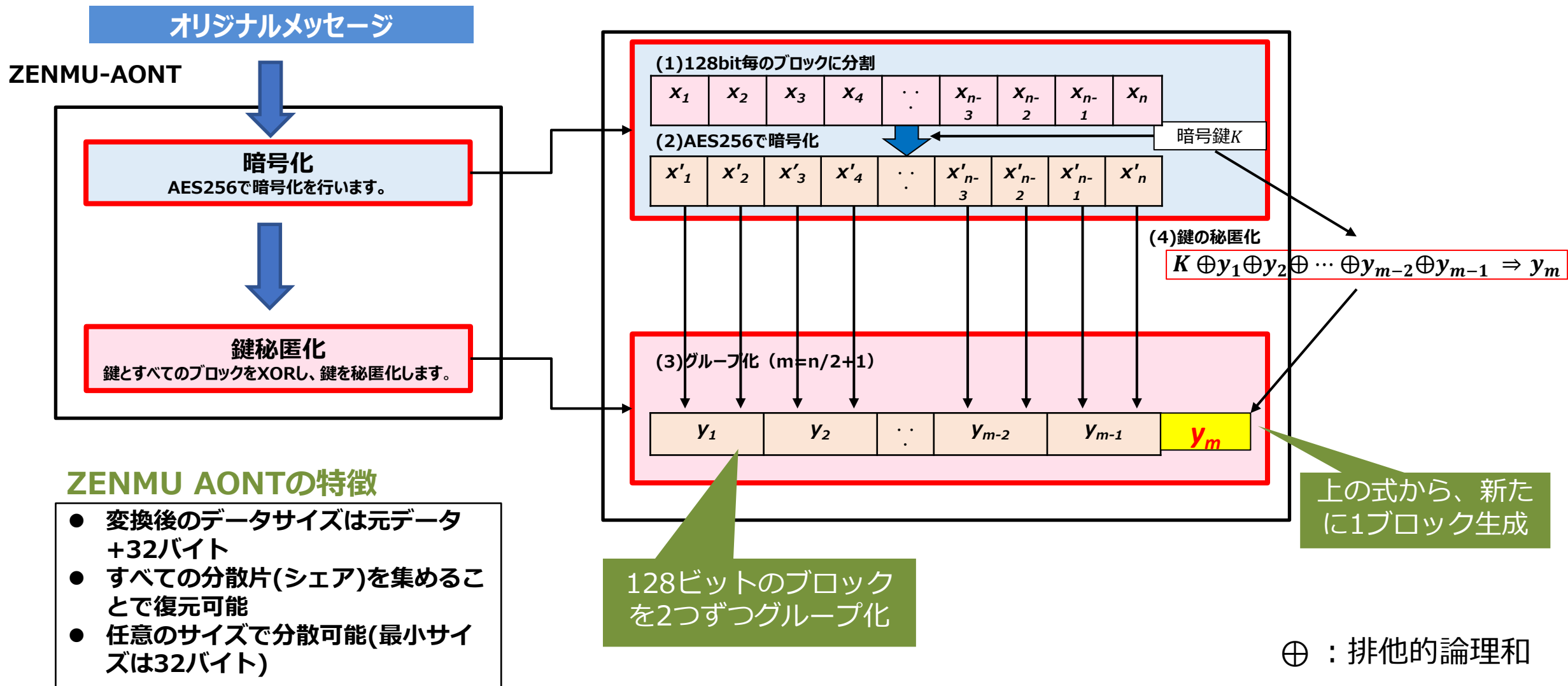
研究開発内容

- レーザー加工
 - サイバー (シミュレータ) とフィジカル (レーザー加工) の高度な融合によるスマート生産の実現 (特定用途CPS (サイバーフィジカルシステム) 型レーザー加工機システムの開発)
 - 日本が有するコア技術「空間光制御技術」の国際によるスマート生産の実現 (高精密・高品質空量子情報技術の開発)
 - 日本発フォトニック結晶レーザーの高出力化の実現
- 光・量子通信
 - 量子暗号、秘密分散、秘密計算の統合により、解読技術の進展によるセキュリティの危険性の懸念がないクラウドサービスの世界に先駆けた開発。電子カルテやゲノム解析情報、スマート製造情報などを用いた実証。(量子セキュアクラウド技術の開発)
- 光電子情報処理
 - スマート製造の実現に必要な、ネットワーク上のリソースの組合せ最適化等の問題を高速で処理する光電子情報処理のソフトウェア、ミドルウェア開発を行い、クラウドサービスを実施。(ImPACT、Q-LEAP、NEDO7D等の状況を踏まえ、今後詳細を決定)



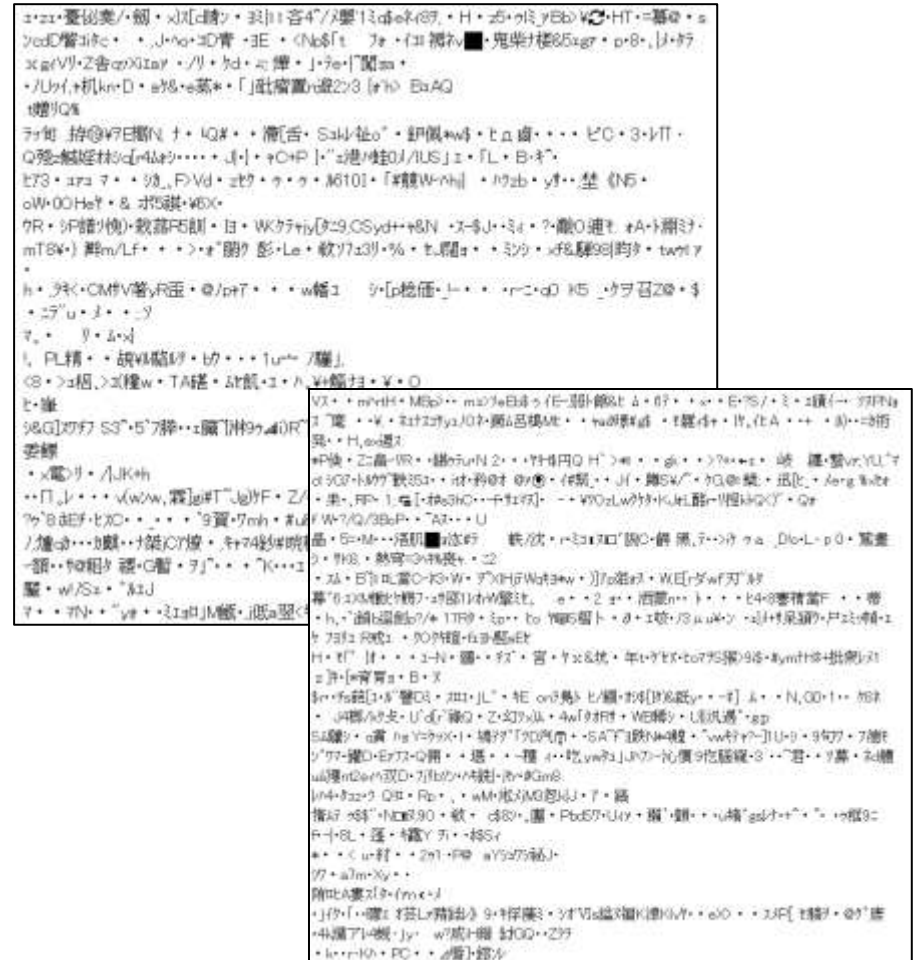
- ZENMU-AONT

ZENMU AONT(概要)



■ AONTの特徴

- 分散割合を任意に設定可能
 - 1:10:100など
- 一片の大きさを格段に小さくできる
 - 最小 32バイト
- 分散後の総データ量は元データとほぼ同等
 - しきい値分散では、分散数に応じて倍々に膨らむ
- 処理速度が速い（データ量が小さいため）



■ AONTの特徴

- 分散割合を任意に設定可能
 - 1:10:100など
- 一片の大きさを格段に小さくできる
 - 最小 32バイト
- 分散後の総データ量は元データとほぼ同等
 - しきい値分散では、分散数に応じて倍々に膨らむ
- 処理速度が速い（データ量が小さいため）

■ 安全性

- 産業技術総合研究所 花岡 悟一郎先生監修の自己評価書
- WISA2019（国際学会）で、最優秀論文賞を受賞



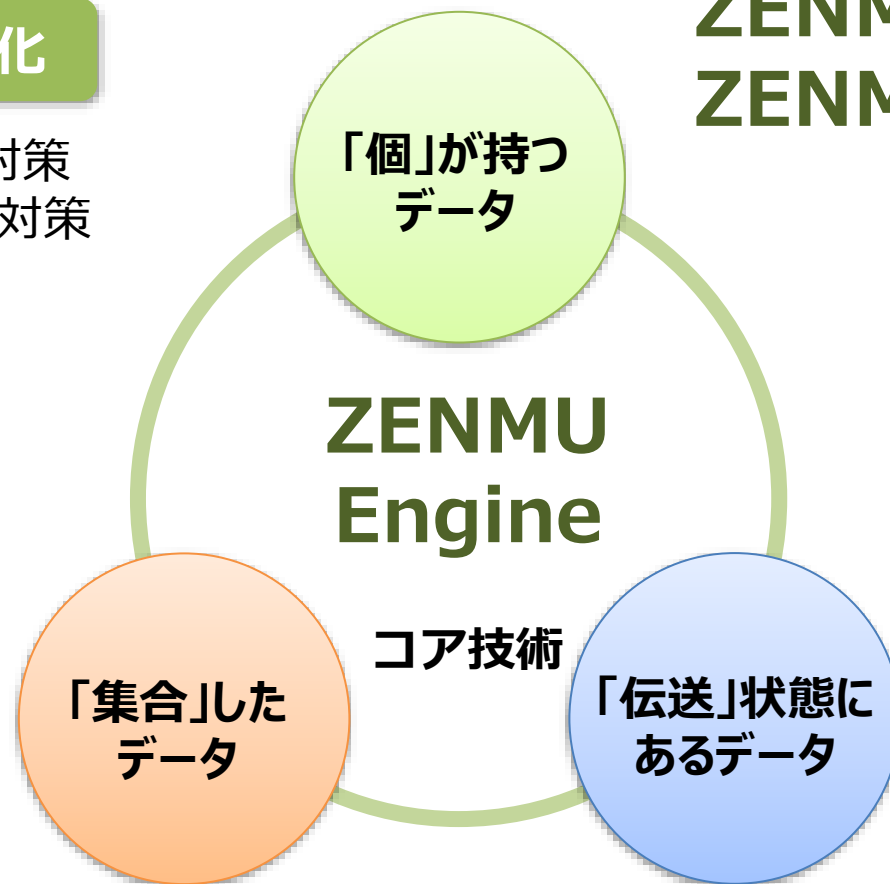
A large, light green circular outline is centered on the page. Inside the circle, the text "ZENMU Engine" is written in a bold, dark green, sans-serif font. Below this, the Japanese text "コア技術" is written in a smaller, black, sans-serif font.

**ZENMU
Engine**

コア技術

自分から離れたデバイスの無効化

- ・個人が持つ端末の紛失・盗難等の対策
- ・個人が持つ端末内のデータの漏えい対策



ZENMU Virtual Drive ZENMU for PC



ZENMU Virtual Drive

- セキュアFATに最適なソリューション
- テレワーク対策やポストVDIとして導入拡大

秘密分散技術

PC上に
仮想ドライブ



仮想ドライブ



ユーザー

- PC内のユーザーデータを仮想ドライブに
- 仮想ドライブを秘密分散で無意味化
- 分散ファイルをPC内とクラウド上に保管

管理者

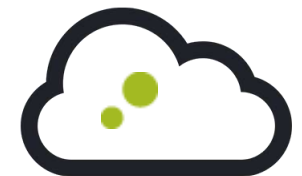
- クラウド上でユーザー管理

クラウド接続時



クラウド上の分散ファイルと
合わせてデータを復元

クラウド未接続時



未接続時、PC内には
無意味な分散ファイルのみ

■ オフラインでの利用

- クラウド上の分散ファイルをスマートフォンやUSBメモリー、Windows共有フォルダーに同期
- ネットワーク環境によらず、オフラインでも安定して利用可能

■ 盗難や紛失時のロック

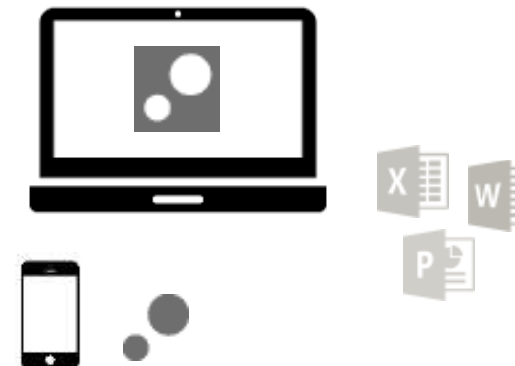
- 紛失に気付いた時点で本人や管理者がPCを利用停止可能
- アクセスログにより不正利用の有無を確認可能
- PCが発見された時点でロックを解除すればすぐにPC利用再開可能

オフライン利用時



分散ファイルを
スマホなどにも保管可能

仮想ドライブロック時



管理画面
分散ファイルに
アクセス停止

自分から離れたデバイスの無効化

- ・個人が持つ端末の紛失・盗難等の対策
- ・個人が持つ端末内のデータの漏えい対策

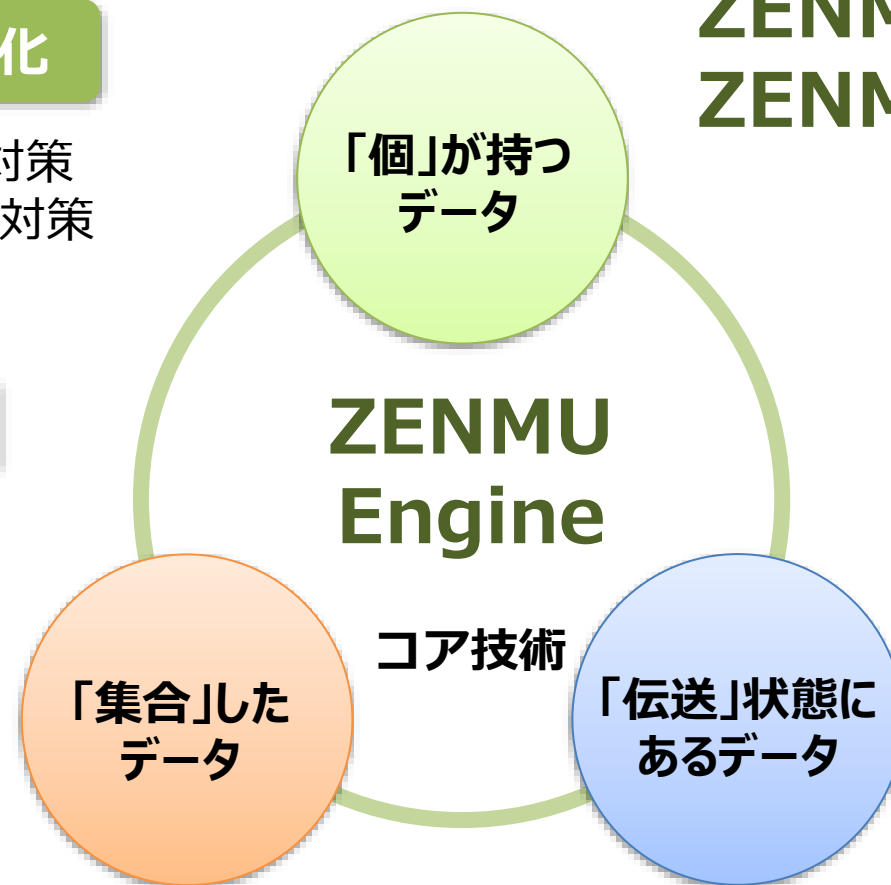
秘匿化によるデータの利活用

- ・サーバーからデータの不正搾取防止
- ・共同作業における本人認証など



ZENMU for Meister

ZENMU Virtual Drive ZENMU for PC



自分から離れたデバイスの無効化

- ・個人が持つ端末の紛失・盗難等の対策
- ・個人が持つ端末内のデータの漏えい対策

秘匿化によるデータの利活用

- ・サーバーからデータの不正搾取防止
- ・共同作業における本人認証など



ZENMU for Meister

「個」が持つ
データ

ZENMU
Engine

コア技術

「集合」した
データ

「伝送」状態に
あるデータ

ZENMU Virtual Drive ZENMU for PC



ネットワーク上のデータの無意味化

- ・伝送中におけるデータの搾取/漏えい防止
例. Mail, Network通信



ZENMU for Delivery

- ZENMU Engine

ZENMUの秘密分散技術をSDKとして提供

■ ファイル単位の秘密分散

- ファイルやストリームデータの秘密分散処理
- 任意の割合で複数の分散ファイルに分割・復号

■ ドライブ単位の秘密分散

- ZENMU for PC/ZENMU Virtual Driveに使用
- PC内のドライブイメージを2つに分割し、SSD/HDD上と外部に保持

■ 秘密分散ストレージ

- サーバー上のドライブを秘密分散し、ネットワーク上のストレージに分散保管
- 利用者からは、ファイルシステムとしてアクセス可能

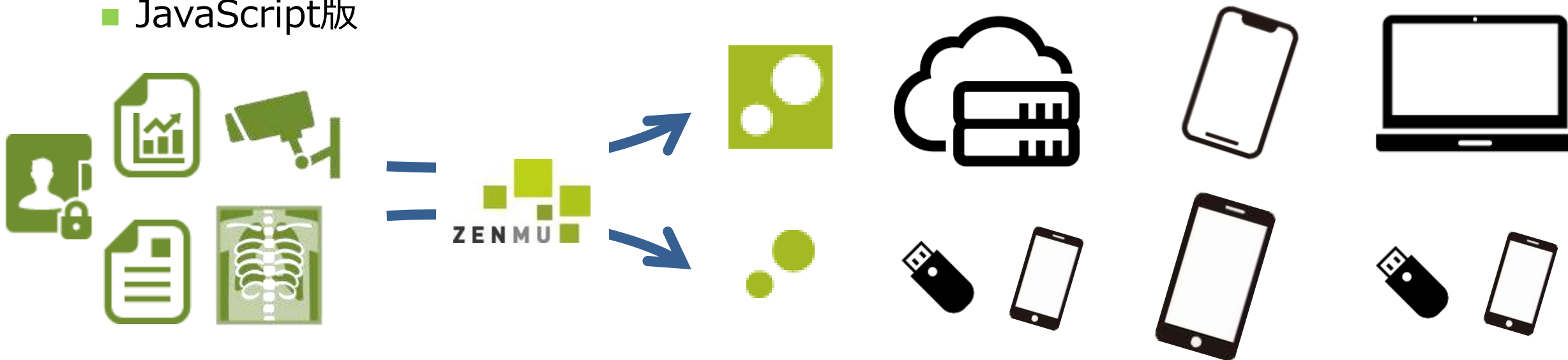
ファイル単位の秘密分散 (ZENMU Engine)

■ 主な機能

- ファイルの秘密分散処理を行い、任意の割合で複数の分散ファイルに保管する機能
- 複数の分散ファイルから復号化処理を行い、元のファイルに戻す機能

■ 対応プラットフォーム

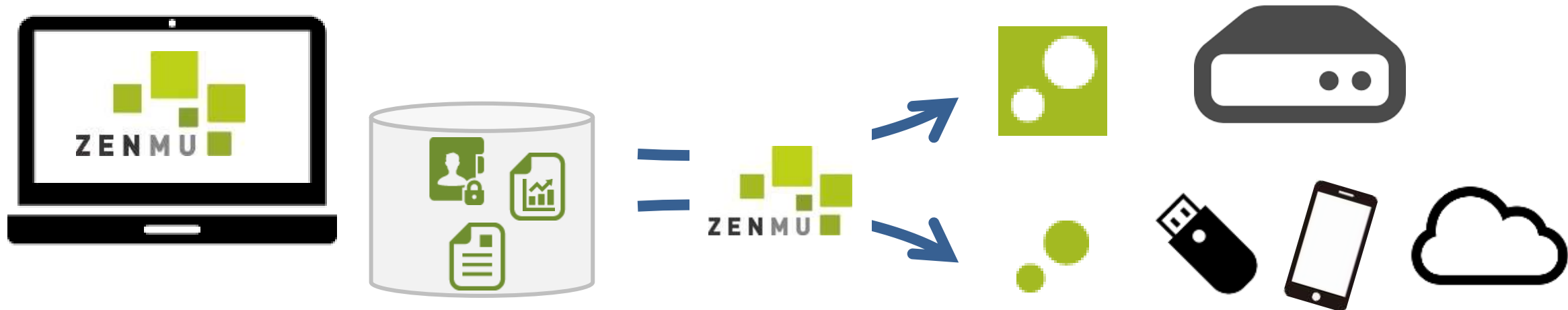
- Windows/Linux 版
- Java版
- JavaScript版



ドライブ単位の秘密分散 (ZenmuDisk)

■ 主な機能

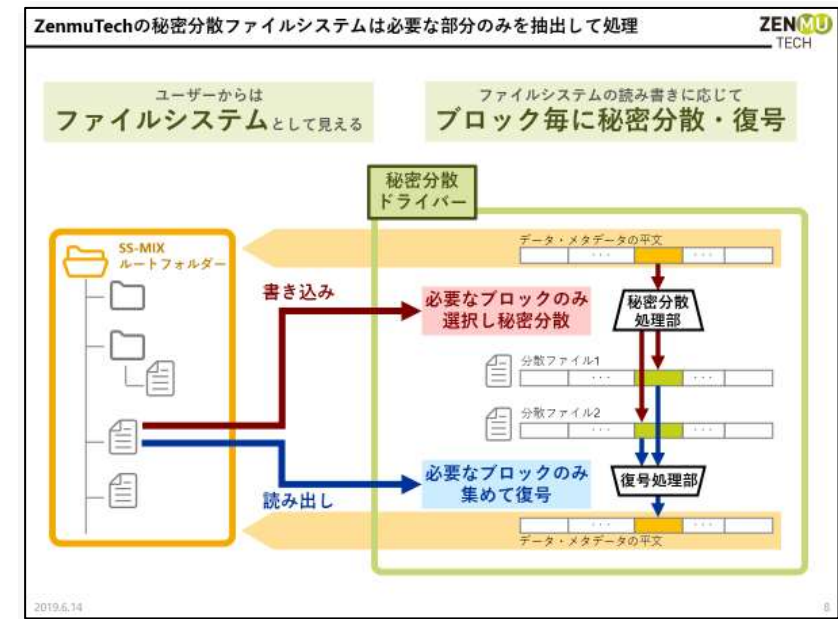
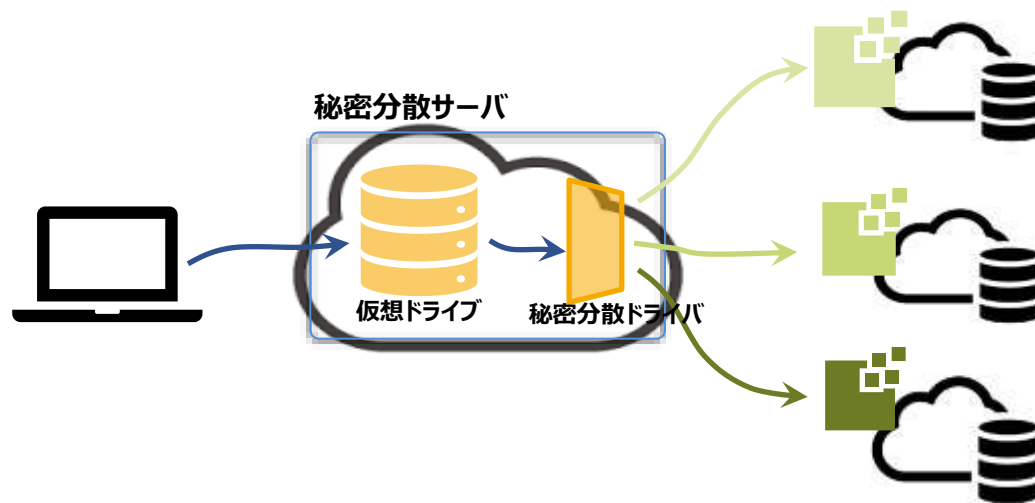
- 仮想ドライブのイメージを2つに分割し、分散ファイル1をSSD/HDD上に、分散ファイル2をメモリー上に保持
- 仮想ドライブを表示し利用可能（マウント） / 非表示し利用不可（アンマウント）にする
- 分散ファイルの不整合を解消するためのロールバック機能。最後にアンマウントした時点または最後にコミットした時点どちらか新しい状態に戻す



秘密分散ストレージシステム

■ 主な機能

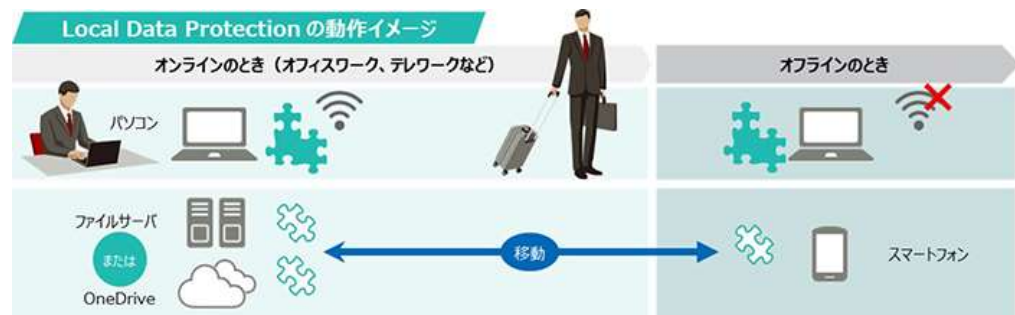
- 秘密分散サーバ上に構築された仮想ドライブを秘密分散し、ネットワーク上のストレージにシェア(分散片)を保管
- 仮想ドライブの必要な部分のみを秘密分散処理するため、高速処理が可能
- 利用者は、通常ファイルサーバーアクセス



- ZENMU Engine 利用例



PCデータの保護 「Local Data Protection」



デジタルウォレット開発キット 「Walletech」



「グローバルセキュア転送サービス」



「秘密分散 フォーメール」



「秘密分散 フォービデオ」



NextWare



iROBOTICS

完全データセキュリティ 「インテグリティ・ドローン」



1 家や車のキーをウェアラブルデバイスに分散



2 ブロックチェーンとの連携



3 IoT機器のデータ収集での通信コストの削減



4 安心・安全なパブリッククラウドの利用



セキュリティだけではなく、エンターテインメント分野などでも

有難うございました



<https://zenmotech.com>